FACULTY OF LETTERS

文学部生のリアルな！学生生活 Vol. 53

13専攻・1プログラムから成る文学部の充実したキャンパスライフと、文学部ならではの多様な学びの情報を発信します。

相互に影響し合い心豊かな学生生活を送る

文学部人文社会学科学びのパスポートプログラムスポーツ文化系2年
私立春日部共栄高等学校（埼玉県）出身
小澤（おざわ） 莉子（りこ）

私が所属している「学びのパスポートプログラムスポーツ文化系」の一番の魅力は、13専攻を横断的に学修できると同時に、スポーツ文化について深く学べる点にある。他大学でスポーツについて学ぶとなると、スポーツ科として文学部と区別されることが多い。だが、中央大学では文学を横断的に学びつつ、それに加えてスポーツ文化についてさらに詳しく学ぶことができる。

私は大学の進学を考える際、「スポーツは世界中の人に愛されているが、スポーツの文化についてはあまり知られていない」という問題を研究したいと考えていた。また私はダンスの活動をしているため、ダンスの文化的背景を横断的に学び習得したうえでスポーツ文化を学びたいと思っていた。このような理由から、中央大学の「学びのパスポートプログラムスポーツ文化系」への入学を決めた。

実際に入学してからは、授業を通じて主にスポーツと国際協力について学んだ。その理由は、ダンスを国際協力に発展させていきたいという新たな目標ができたからだ。そのためには、自分自身ただ踊れるダンサーではなく、文化的背景を持ったダンサーをめざすべきだと考えた。また、ダンサーはSNSで発信をする立場になることも少なからずある。そこで、自分の目標を達成するためにはスポーツ社会学と社会情報学概論をメインに履修すべきだと考え、いかにスポーツを国際協力に活かせるかというテーマで学んだ。たとえば、スポーツとメディアは切っても切れない関係である。スポーツがメディアを熱くし、またメディアがスポーツを熱くする。つまり、現代においてスポーツで国際協力を発展させるためには、メディアを活用しながら活動していくことが大切だと知った。

特にこの大切さを実感したのは、昨年、大学生ダンサーのナンバーワンを決めるMiss College Dancer2023というダンスのコンテストに出場した時だ。Miss College Dancerというコンテストは、セミファイナル期間とファイナル期間を経てグランプリが決まる。順位を決める審査の一つにはSNS審査があった。SNS審査では、自分のダンス動画をInstagramにアップし、いかにファンを獲得できるかがポイントとなる。具体的には、「いいね」の数やアクティブフォロワー数（平均の「いいね」数÷フォロワー数×規定の点数）が審査の対象となっていた。SNSでは国籍関係なく誰でもどこでも動画を見ることができるため、自分をアピールするにはとてもいい媒体である。私はこのコンテスト期間中、SNSに動画を20回投稿した。日本人だけでなく、外国人もたくさん見てくれて、応援してくれていることがわかった。SNSという媒体を通じて国籍関係なく人々と関わることができれば、国際協力に発展させられるのではないかと、この経験から実感することができた。

スポーツ文化系のクラスメイト

一方で、「ダンスはスポーツなのか？」と思われる人もいるかもしれない。しかし、パリオリンピックではブレイクダンスが競技種目に追加

されたことを考えると、スポーツと言ってもいいのではないかと思っている。最近では、K－POPアイドルの影響でダンスに興味を持っている若者がますます増えてきた。だからこそ、影響力のあるダンスを活用すれば国際協力へと発展させられると考えている。

私がここまで考えられるようになったのには、クラスメイトのおかげもある。私が所属しているスポーツ文化系の友人たちは、ほとんどが体育連盟の部会に所属している。そのため自分の目標に向かって努力しているクラスメイトから毎日刺激をもらっており、私もクラスメイトのように頑張りたいという気持ちでこのコンテストに参加した。

そして、約半年間自分と向き合い努力し続けた結果、コンテストでファイナリストに残ることができた。ファイナリストの発表会は授業の関係上、現地ではなくオンラインで参加した。ファイナリストに残れているか自信がなく不安だった私は、クラスメイトにファイナリスト発表を一緒に聞いてもらった。ファイナリストとして私の名前が呼ばれた時は、クラスメイトは自分のことのように喜んでくれた。その後の最終発表当日は、クラスメイト数人が現地に駆け付けてくれた。残念ながら賞を取ることはできなかったが、クラスメイトたちは私のダンスを見てすごく勇気や活力をもらったと言ってくれた。異なる対象や競技に打ち込む人たちにも、自分のダンスで影響を与えることができるのだと実感した。

「相互に影響し合い心豊かな学生生活を送ることができる」。これ以上に幸せなことはない。この環境に感謝しつつ、今後も「スポーツと国際協力」について研究していきたい。私は、他国の文化や歴史、社会情勢を理解し、その学びをダンスで表現することが、世界中の方々とつながるきっかけになると考えている。単につながりを持つだけにとどまらず、それを国際協力へと発展させていくのが目標だ。

また、ダンスの中でも主に韓国のダンスを専門分野として研究したいと思っており、短期あるいは長期での留学も検討している。そして最終的には、ダンスが民族的にも歴史的にも古今東西欠かせないものであると同時に、言語を超越して共感できる身体表現であること、それは国際協力へと発展させられるものであることを、メディアという媒体を活用して世界中に広めていきたいと考えている。

ファイナリストオープニングダンス

Miss College Dancer 2023

自分の事のように喜んでくれた友達

文学部だより

情報社会を科学する

髙橋（たかはし） 美奈子（みなこ） 社会情報学研究室室員

「この資料を探しています」と、スマホを片手に来室する学生が多くなりました。以前は、学内にあるパソコンで中央大学図書館蔵書検索システムCHOISを利用する方法をご案内しておりましたが、すでに蔵書検索済なのです。

社会情報学研究室は、文学部３号館高層棟の４階にあります。一歩足を踏み入れると、グループ学習用の可動可能な学習机や立ち読みができる丸テーブルや、気軽に腰掛けられるカラフルなスツール、プレゼンテーション用のホワイトボードなどが備えられています。大学図書館の分室である当研究室は、書庫と閲覧を目的としたスペースから、コミュニケーションの場としての役割へと変化し、小規模ながらラーニングコモンズとしての空間を感じることができます。

社会情報学専攻は、「もの」から「情報」に中心が移りつつある中、「情報」に焦点を当て、多様な角度から現代社会を研究しています。全国でも先陣を切って1990年に設立されました。情報コミュニケーションコースと図書館情報学コースがあり、数多くの専門科目を開設していることがカリキュラムの特色の一つです。１年生が履修するプログラミングは、「文学部でプログラミングが必修？」と不安気な質問がありますが、パソコン教室での授業はサポートも万全で、両コースの情報に関するさまざまな科目を選択することにより基礎から学び、それが３・４年生での研究成果へとつながります。

３年生から履修するゼミ（社会情報学演習）では、４年生で執筆する卒業論文・卒業課題研究の指導を受けます。学生はWeb上の情報ばかりを追い求めているのではなく、研究テーマを自分自身の周りから見つけ、調査方法を検討し、アンケートを実施して回答を分析し、卒論を書き上げています。多くの方々に協力いただいた結果概要を、ゼミの公式SNSに掲載して社会に還元するといった方法も取られます。また、学外で催される図書館総合展での発表など熱心に取り組んでいます。

大学内で学習の場が提供されることにより、学生たちはそこに集い、教員がいない空間であっても積極的に意見を交換しています。研究室のスタッフ（室員）として、さまざまな変化に柔軟に対応し、実際に人と人とが触れ合い、書物を手に取りながらコミュニケーションできる場として、居心地のよい研究室づくりを心掛けていきたいです。